

# 第2回保団連代議員会

# 発言要旨と執行部答弁

保団連は6月27日、第2回代議員会を開催し全国の保険医協会・医会から代議員114人を含む303人がWebを含めて参加した。新型コロナウイルス感染症に関する様々な提案を始め、75歳以上窓口負担2割化やマイナンバーカード、金パラ問題、歯科技工問題などを中心に議論が行われた。長野協会からは宮沢会長、奥山副会長を代議員とし、その他役員3名がWeb参加した。以下に長野協会からの発言通告、フロア討論とそれに対する執行部答弁の要旨を報告する。

## 1 コロナ禍で再編・統合問題に改めて反対!

(宮沢代議員) 新型コロナによる病床逼迫により改めて公立・公的病院の役割が注目される中、政府は地域医療構想を推進継続する方針のまま医療法等改正案を成立させた。コロナ禍で露わになった地域医療提供体制の脆弱さをきちんと検証し、必要な病床は国の責任で確保すべきであり、改めて再編・統合リストの白紙撤回を求める。

(執行部答弁) このコロナ禍で医療にとって余裕を持った体制が不可欠であることが明らかになったにもかかわらず、地域医療構想を推進し医療提供体制を縮小するという政権の方針は変わらないまま医療法等改正案の成立が強行された。秋には総選挙が行われるが、選挙戦にはこういった話は出てこないと思われるため、我々が国民に対してきちんと地域医療の在り方や地域における医療機関それぞれの役割を知らせ、しっかりととした視点を持って選挙に行ってもらうためのアピールをしていくことが重要と考える。

## 2 公衆衛生行政の抜本的改善と日本版CDCの創設を

(宮沢代議員) 保健所数は再編・統合により今では4割以上減少した。その結果、コロナ禍で職員への過重労働や保健所機能不全を招き、地域の開業医にもしわ寄せが及んでいる。公衆衛生は国、自治体が司令塔となり集団的に対応すべきであり、保健所の機能強化が必要だ。また、疫病管理予防の観点から、総合的な政策提言を行う研究機関として日本版CDC(疫病対策予防センター)を創設すべきである。

(執行部答弁) ご指摘の通り公衆衛生行政の抜本的改善が不可欠である。保団連では保健所等の人員・予算を大幅に増やすとともに国立感染症研究所の機能強化、さらに日本版CDCを創設し感染症に対応できる仕組みを構築することを求めているが、いまだに政府はこれらの実現に背を向いている。今後は実現に向けさらに要請を強めていく。

## 3 金パラ代替材料の開発、普及材料の保険導入を

(奥山代議員) 金パラの逆ザヤ状態は医院経営を圧迫するだけでなく金パラを使えない医療機関の増加により良質な医療の提供ができなくなる可能性を招く。公的保険の材料が市場価格に左右される体制自体が問題であり、そなならないために抜本的な制度改革や、金パラの代替材料の開発及び既に普及しているジルコニア等の保険導入を求める。

(執行部答弁) メタルフリー材料の開発、すでに十分普及している材料の保険導入を求めるとのご意見については、昨年10月に出された日歯の「2040年を見据えた歯科ビジョン」でもそれらが期待されると記載されている。また、公的保険の材料価格が市場価格に左右され乱高下すること自体が問題であるとのご指摘については、その通りである。市場価格の調査対象とされる時期と価格改定が行われる時期に乖離があることも問題であり、歯科用貴金属の購入価格は過不足なく保険償還されるよう厚労省に実勢価格のモニターを行わせ、現行の価格改定の仕組みを検証の上、抜本的に改善することを求めていく。要請を強めていく上で保団連の実勢価格モニター調査は大きな影響力を持つため、今後多くの参加をお願いする。

**フロア討論 (奥山代議員)**  
保団連は歯科医療費の10%の総枠拡大を提案しているが、毎回の診療報酬改定が1%いくかどうかの中で、なかなか10%という現実的には受け入れられないのではないかと思う。そこで、歯科技工問題や金パラ問題も絡めて、以前入れ歯運動を行った時のように今回は補綴関連部分だけの点数アップの一点突破するという提案をしたい。

(執行部答弁) もし一点だけでやって潰れてしまった時に全く要求が通らなくなるというリスクを考えると、いろいろな案を出していくのが一番いいのではないかと個人的に思っている。

## 4 新型コロナを教訓に医療従事者の養成・確保を

(宮沢代議員) 政府は2023年度から医学部入学定員を段階的に減らす方針を固め、今国会で成立した医療法等改正ではその前段階として医師の長時間労働の容認、タスクシフト、病床・病院の整理・削減等を進めようとしている。高齢化で医療従事者の役割が増す中、日本の医師・看護師数が少ないことは世界各国と比較しても明白であり、医療従事者の養成・確保と待遇改善を強く望む。

(執行部答弁) 医療現場における医師、看護職員を始めとするマンパワーの絶対的不足があり、歯科では提供体制維持のための専門職の養成・確保は喫緊の課題である。ご指摘の通り、歯科医師の高齢化など今後の提供体制への懸念から厚労省も検討会を立ち上げ議論を開始している。歯科衛生士、歯科技工士についても、志望者数の減少と養成校の閉鎖、低就業率など非常に深刻な状況となっている。患者に寄り添った医療提供の維持・確保に向けて国にマンパワーの確保・待遇改善を求めて参りたい。

## 5 全国で歯科技工会と懇談を

(奥山代議員) 長野協会では昨年末に歯科技工所アンケートを実施、その結果を元に記者会見、技工士会との懇談を行った。記者会見では「なぜ技工士ではなく歯科医師が発信するのか」という反応もあった。歯科技工問題の根本は低医療費政策であ



保団連会場の当日の様子

り、歯科技工士と歯科医師が一致して歯科医療費の総枠拡大を目指していくため、各都道府県でまずは歯科技工士会との意見交換から実施して頂きたいたい。

(執行部答弁) 4月20日の第6回歯科技工問題を考える国会内集会には、Webを含め300人以上という多くの関係者が参加した。各地で技工士会や技工学校に働きかけた結果、技工士会会長や学校長、歯科技工士自身が主体的に参加されたことは特筆すべき成果である。国会議員も与野党から16人が参加しその後の国会質問にも結び付くなど各地での粘り強い歯科技工士との関係作りが大きな広がりに結実している。技工士の実情と要求を共有し、



解決のための協力を呼び掛ける重要性はこの間の活動を通じても明らかであり、引き続き各地で懇談を広げていただきますようお願い申し上げる。

## 第6回歯の供養祭

「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会では、10月8日の「イレバの日」にちなみ、第6回目となる「歯の供養祭」を善光寺大勧進で開催します。長年、体の一部として黙々と働いてくれた歯に感謝し、その役目を終えた歯や入れ歯を心をこめて供養いたします。

また、寄せられた入れ歯についている金属は、精鍊・リサイクルし福祉団体等に寄付させていただきます。供養祭にご提供いただける歯や入れ歯などがありましたら、供養祭当日にお持ち頂くか、10月5日(火)までに長野県保険医協会(〒380-0928長野市若里1-5-26)宛てに着払いにてご送付ください。



感染対策しながら開催した昨年の供養祭の様子

日 時：10月8日(金)  
午前10:30～11:00  
(受付9:30～10:20)  
場 所：善光寺大勧進  
〒380-8501長野市元善町492  
参加費：参列・ライブ配信視聴・供養料無料  
主 催：「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会

供養祭当日は感染防止対策を徹底して開催するほか、今年度はインターネットライブ配信も予定しています。本件に関するお問い合わせは、長野県保険医協会事務局まで。(TEL: 026-226-0086 担当: 原、田村)